

**製品名: C/EBP  $\beta$  (リン酸化 Thr235) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04341**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CEBPB
別名	CEBPB; LAP; TCF5; PP9092; CCAAT/enhancer-binding protein beta; C/EBP beta; Liver activator protein; Nuclear factor NF-IL6; Transcription factor 5; TCF-5
遺伝子 ID	1051.0
SwissProt ID	P17676
免疫原	抗血清は、Thr235/188 のリン酸化部位周辺のヒト C/EBP- $\beta$ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-250

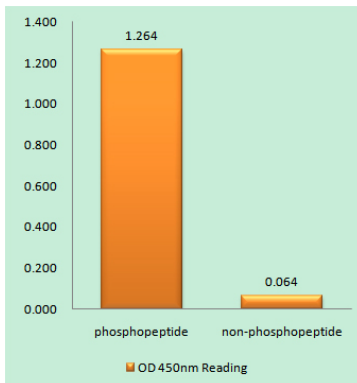
**背景**

このイントロンのない遺伝子は、塩基性ロイシンジッパー (bZIP) ドメインを含む転写因子をコードしています。コードされているタンパク質はホモ二量体として機能しますが、CCAAT/エンハンサー結合タンパク質  $\alpha$ 、 $\delta$ 、 $\gamma$  とヘテロ二量体を形成することもできます。このタンパク質の活性は、免疫反応や炎症反応などに関わる遺伝子の調節において重要です。選択的なインフレーム AUG 開始コドンの使用により、それぞれが異なる生物学的機能を持つ複数のタンパク質アイソフォームが生成されます。[RefSeq 提供、2013 年 10 月]機能: 免疫反応や炎症反応に関わる遺伝子の調節における重要な転写活性化因子。IL-6 遺伝子の IL-1 応答エレメントに特異的に結合します。NF-IL6 は、いくつかの急性期遺伝子やサイトカイン遺伝子の調節領域にも結合します。急性期反応、炎症、造血の調節において役割を果たしていると考えられます。コンセンサス認識部位は 5'-T[TG]NNGNAA[TG]-3'です。、PTM: SUMO2 または SUMO3 のポリマー鎖によって SUMO 化されます。、類似性: bZIP ファミリーに属します。、類似性: bZIP ファミリーに属します。C/EBP サブファミリーに属します。、類似性: 1 つの bZIP ドメインを含みます。、サブユニット: DNA に二量体として結合し、C/EBP $\alpha$ 、 $\delta$ 、 $\gamma$  と安定なヘテロ二量体を形成します。TRIM28 および PTGES2 と相互作用します。、組織特異性: 肺、腎臓、脾臓で低レベルで発現します。、

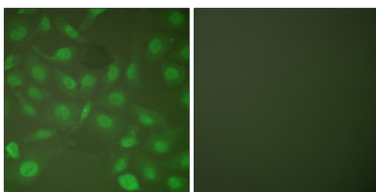
## 研究分野

幹細胞経路; タンパク質アセチル化

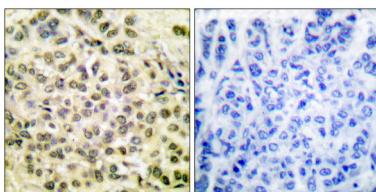
## 画像データ



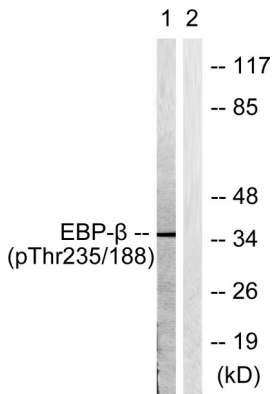
C/EBP-beta (リン酸化 Thr235/188) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



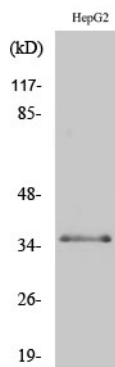
C/EBP-beta (リン酸化 Thr235/188) 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



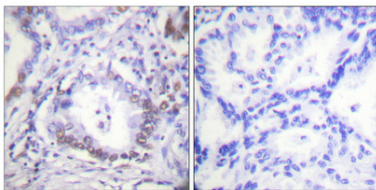
C/EBP-beta (リン酸化 Thr235/188) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 30 分処理した HepG2 細胞ライセートの C/EBP-beta (リン酸化 Thr235/188) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 希釈の Phospho-C/EBP  $\beta$  (T235) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。